



雪の重みで倒木、電柱も倒壊し高圧事故発生！

鶴岡事業所 鈴木 拓磨

積雪の影響で倒木したことにより発生した高圧事故の事例をご紹介します。

〔状況〕

12月下旬の16時頃、お客さまから「電柱が折れ停電している」と事業所に電話連絡がありました。山中に施設があり、豪雪地域のため、翌日お客さまと一緒に雪上車で現地調査することになりました。

また、1月初旬に施設を使用する予定があることから、それまでに復旧できるか大変心配しておられました。

〔調査〕

翌日、同僚1名とお客さま2名で、8時45分に現場付近の駐車場に集合して雪上車で山に登り、9時頃現場に到着しました。お客さまと状況を確認すると、東北電力ネットワーク（株）配電線側及びお客さま構内側で、2本の電柱が倒壊してはおりませんか。さらに、架空電線が切れて落下している箇所が複数見受けられました。

また、引込柱を確認すると、区分開閉器は開放状態でした。

〔原因〕

雪の重みにより折れた樹木が架空電線に寄りかかり、その重さとストレスで電柱が折れたものと推測されます。

〔復旧〕

現場調査後、すぐに電気工事会社へ連絡していただき、日程調整のうえ、翌年1月10日から11日にかけて、当協会立会いの下改修工事を実施しました。まず、倒壊した樹木や切れた電線の撤去などを行いました。電柱については、すぐに手配できないことから、折れた部分にアームを取り付け、新しい架空電線を張り替え、仮復旧という形になりました。

また、積雪のため高所作業車や協会車両が現場に立ち入れないため、事前に除雪業者が数日間かけ除雪に入るといふ大規模な工事になりました。

〔お客さまの声〕

「施設の使用日まで復旧できるか心配でしたが、間に合って良かったです。迅速に対応していただきありがとうございます」と感謝の言葉をいただきました。



〔まとめ〕

今回の事例は、積雪が原因で高圧事故に至ったものですが、施設の方にケガがなかったのは幸いでした。当該お客さまは山中に位置し、積雪量も非常に多い地域であることから、普段の月次点検の際には機器だけでなく、電線に樹木が接近していないかなど、現場の環境を広い視野で確認することが重要だと感じました。



樹木が倒れ配電線に寄りかかっている



電柱が折れている



アームを取り付け仮復旧